

第14章 自然環境の保全

第1節 自然環境の現況

府域の自然環境の現況を概観すれば、次のとおりである。

1 地勢の特質

(1) 地 質

北摂山地の大部分は、中・古生層からなるが、茨木市から能勢町にかけて茨木複合花崗岩体が分布しており、碎石・マサ土の採取が行われている。金剛・生駒山地は大部分が領家花崗岩類からなり、北生駒は風化が著しく、標高も低いので、マサ土の採取による人工的改変地形が各所にみられる。

和泉葛城山地は、和泉層群及び泉南酸性火砕岩類からなっており、丘陵地帯は大阪層群、神戸層群及び段丘層から、沖積低地は沖積層からそれぞれなっている。

(2) た め 池

府域には1万余りのため池が点在するが、その大半は堺市、松原市及び八尾市を結ぶ地域から南の方に集中して分布しており、他は淀川水系の水が利用できない生駒山麓及び北摂丘陵地帯に分布している。大規模なものとしては、久米田池（岸和田市）、狭山池（大阪狭山市）、光明池（和泉市）などがある。

2 植生の特質

府域を冷温帯と暖温帯に分けると、その大部分が暖温帯に属する。冷温帯の多くはモチツツジ・アカマツ群集やスギ・ヒノキ人工林などの代償植生に置き変わり、自然植生としては、妙見山及び和泉葛城山地の山頂部にわずかにブナ林が残存している。一方、暖温帯は古くから利用の対象にされていたので、大部分は市街地、造成地、田畑及び果樹園となっているが、山地から丘陵にかけては、代償植生としてモチツツジ・アカマツ群集、特にアカマツ林が広く分布しており、次いでコナラ群落為主として生駒山地に、スギ・ヒノキ人工林が北摂及び金剛の山地にそれぞれ分布している。自然植生としては、社寺、古墳及び急傾斜地にアラカシ群落、サカキ・ウラジロガシ群集及びゴジークロバイ群集がわずかに残存しているにすぎないが、貴重なものとしてウバメガシトベラ群集が岬町の住吉神社に、シリブカガシ群落が堺市の美多弥神社等にそれぞれ残存している。冷温帯と暖温帯の推移帯（標高600～800mの地帯）である高槻市本山寺等にはモミ、ツガの天然林が点在している。

また、淀川、大和川の河川敷にはヨシ、オギなどが優占する湿原がある。

3 生息鳥獣の特質

府域の野生鳥獣については、約30種の獣類と約270種の鳥類が確認されている。獣類で、特徴的なものはシカ、イノシシ、ニホンザル等である。シカは主に箕面市の鉢伏山、高槻市の本山寺、能勢町の剣尾山等に生息しており、イノシシは北摂山地一帯、和泉葛城山地に、またニホンザルは北摂（箕面を中心）に分布する。

鳥類については、北摂、金剛・生駒、和泉葛城の三山地のアカマツ林を中心にサシバなどのワシタカ類やヤマガラ、ヨタカなどの山地性の鳥類が生息し、平野部ではスズメ、ムクドリ、ヒバリ等が多数みられる。

冬期には仁徳陵、仲哀陵などの堀や、淀川河川敷などに多数のカモ類が渡来し、春秋期には大阪市南港埋立地、泉南市男里川河口の干潟にシギ、チドリ類が渡来する。

4 森林、農地の推移

府域の森林、農地は単に木材生産あるいは食糧供給のみでなく、土砂流出防止、水源かん養、大気浄化、保健休養や環境保全など多様な機能を有している。森林については、南河内など生産性の高い林業経営が行われている地域を除いて資産保持的な傾向が強く、森林の他用途への転用により林野面積は漸減の傾向にある（表2-14-1）。

一方、農地は都市化の進展に伴い、毎年減少の一途をたどっている（表2-14-2）。また、最近の転用面積は石油ショックを契機とした経済情勢の変化、高額な土地価格等により、漸減の傾向にある。

なお、平成2年次の転用状況を用途別にみると、住宅が23.0%、学校等の公共施設が12.6%を占めている。

表2-14-1 林野面積等（民有林）の推移

年 度	区 分	林 野 面 積	伐 採 量	造 林 面 積
昭61		56,760 ha	51 千㎡	232 ha
62		56,678	38	230
63		56,564	46	230
平元		56,530	42	223
2		56,461	30	193

表 2 - 1 4 - 2 耕地面積の推移

(単位 : ha)

年	昭 6 1	6 2	6 3	平元	2
面 積	19,600	19,400	19,000	18,500	18,100

(注) 1 数字は各年 8 月 1 日現在の状況を示す。

2 近畿農政局調べ。

第 2 節 自然環境保全対策

第 1 法律・条例に基づく指定

府下の優れた自然の風景地の保護とその利用の増進を図るため、自然公園法（昭和 32 年法律第 161 号）に基づき金剛生駒国定公園及び明治の森箕面国定公園の 2 地域（総面積 11,647 ha）が国定公園として指定されているのをはじめ、無秩序な市街化を防止し、緑地を保全するため、近畿圏の保全区域の整備に関する法律（昭和 42 年法律第 103 号）に基づき近郊緑地保全区域（3 区域、総面積 33,472 ha）が指定されている。また、森林の有する水源かん養機能、土砂流出防備機能等の維持向上のため、森林法（昭和 26 年法律第 249 号）に基づき保安林（総面積 14,922 ha）が指定されている（表 2-14-3～5）。

さらに、府下に残された優れた自然環境を保全するため、大阪府自然環境保全条例（昭和 48 年大阪府条例第 2 号）に基づき、府自然環境保全地域として昭和 53 年 1 月に本山寺自然環境保全地域（高槻市大字原、面積 1.432 ha）を指定しているほか、平成元年 4 月に意賀美神社自然環境保全地域（岸和田市土生滝町、面積 1.32 ha）、美具久御留魂神社自然環境保全地域（富田林市宮町、面積 2.16 ha）、若山神社自然環境保全地域（島本町大字広瀬、面積 11.03 ha）、妙見山自然環境保全地域（能勢町野間中、面積 9.50 ha）の 4 か所を新たに指定した。

その他、市街地の緑を守るため、都市緑地保全法（昭和 48 年法律第 72 号）に基づき、今米緑地保全地区（東大阪市今米、面積 0.5 ha、昭和 59 年 9 月 21 日）男神社緑地保全地区（泉南市男里、面積 1.4 ha、平成元年 3 月 3 日）を指定している。

表 2-14-3 国定公園面積

（平成 3 年 3 月 31 日現在）

公 園 名	指 定 年 月 日	面 積	関 係 市 町 村
金 剛 生 駒 国 定 公 園	昭 33. 4. 10	10,684.8 特別地域 10,684.5 普通地域 0.3	交野市、四條畷市、 大東市、東大阪市、 八尾市、柏原市、 羽曳野市、太子町、 河南町、千早赤阪 村、河内長野市、 和泉市
明 治 の 森 箕 面 国 定 公 園	42. 12. 11	特別地域 962.6	箕面市
合	計	11,647.4	

表 2-14-4 近郊緑地保全区域面積

(平成3年3月31日現在)

区 域 名	面 積
北 摂 連 山 近 郊 緑 地 保 全 区 域	9,727 ha
金 剛 生 駒 近 郊 緑 地 保 全 区 域	11,156
和 泉 葛 城 近 郊 緑 地 保 全 区 域	12,589
合 計	33,472

表 2-14-5 保安林の現況

(平成3年3月31日現在)

保安林の種類	水源かん養	土砂流出	土砂崩壊	小計	防風	潮害防備	干害防備	落石防備	防火	魚つき	保健	風致	小計	合計
面積 (ha)	8,249 (2,049)	5,904 (2,012)	62 (9)	14,215 (4,070)	1	7	111 (6)	1	1	7	444 (4,074)	135 (2)	707 (4,076)	14,922 (4,076)

(注) () は兼種指定で内数、ただし保健・風致及びその小計は外数

第2 法律・条例に基づく規制

1 規制の状況

国定公園内の特別地域（府域の国定公園面積の99.9%）においては、その風致景観を維持するため当該地域内における工作物の新築又は増・改築、土石の採取、土地の形状の変更等の行為について、自然公園法に基づき、知事の許可を要し、また、近郊緑地保全区域においては、無秩序な市街化を防止し、緑地を保全するため当該区域内における工作物の新築又は増・改築、土地形質の変更、土石の採取等の行為については、近畿圏の保全区域の整備に関する法律に基づき、知事に届出を要することになっている。さらに、保安林において立木の伐採を行う場合及び地域森林計画対象民有林において1haを超える開発行為を行う場合には、森林法に基づき知事の許可を要することになっている。このためこれらの事務処理に際しては、自然環境の保全に重点をおいて指導監督の徹底を図り、規制を強化している。平成2年度におけるこれらの法律に基づく許可及び届出の状況は表2-14-6～8のとおりである。

表 2-14-6 国定公園等における工作物の新築等の許可・届出状況（平成2年度）

行為の種類	国定公園	近郊緑地保全区域
建築物の新築	31 件	53 件
建築物の増築	1	5
建築物の改築	2	0
土地形質変更	11	13
土石の採取	7	17
木竹の伐採	0	0
広告物の設置	0	0
合計	58	88

表 2-14-7 森林法に基づく保安林の伐採等の許可状況（平成2年度）

許可の種類	許可件数
保安林内作業許可	13 件
立木伐採許可	5

表 2-14-8 森林法に基づく地域森林計画対象民有林地における開発許可状況（平成2年度）

開発行為の目的	許可件数
工場・事業場用地の造成	2 件
住宅用地の造成	0
別荘地の造成	0
ゴルフ場の設置	0
レジャー施設の設置	0
農用地の造成	1
土石の採掘	16
道路の新設又は改築	0
その他	1
計	20

また、残り少ない府域の自然環境の保全と回復を目的として制定された大阪府自然環境保全条例では、土石の採取、住宅地の造成等の自然環境に影響を及ぼす行為を行おうとする者に対して、知事との間に自然環境の保全と回復に関する協定を締結することを義務づけ、開発行為に厳しい規制を加えている。平成2年度における協定締結状況は表2-14-9のとおりである。

一方、鳥獣保護については、鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律（大正7年法律第32号）及び同法に基づいて策定した第6次鳥獣保護事業計画（昭和62年度～平成3年度）により鳥獣保護区の設定など野生鳥獣の適正な保護管理に努めている（表2-14-10）。

表2-14-9 府自然環境保全条例に基づく協定締結状況（平成2年度）

行為の種類	締結件数
ゴルフ場の造成	0 件
住宅地の造成	8
事務所・事業所の敷地の造成	8
レクリエーション施設の敷地の造成	5
業として行う廃棄物の埋立処分	0
墓地の造成	0
土石の採取	17
合 計	38

表2-14-10 鳥獣保護区等の設定状況

（平成3年3月31日現在）

区分	箇所数	面積
鳥獣保護区	13	8,759 ha
鳥獣保護区特別保護地区	1	70
銃猟禁止区域	56	28,451

2 監視等の強化

自然公園及び近郊緑地保全区域を中心とする自然環境の監視体制の強化の一環として、府では、府自然環境保全条例に基づく自然環境保全指導員、鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律に基づく鳥獣保護員を任命しており、さらに環境庁から任命された自然公園指導員とあわせてこ

これらの指導員が、府域における自然環境の保全と回復に関する監視に努めている。

また、森林法に基づく保安林の適正な維持管理や森林火災の防止等を図るため森林保全員を委嘱し、巡視を通して森林の保全に努めている。

第3 自然環境保全事業の実施

(1) 自然公園施設の整備と管理

明治の森箕面国定公園と金剛生駒国定公園において自然公園の有効利用を図るため長谷・勝尾寺線の整備、箕面ビジターセンターの外構整備を行うとともに、東海自然歩道、ダイヤモンドトレール等の長距離自然歩道の改修を行い、利用の促進を図った。また香楠荘の利用促進及び効率的な運営を図るため、施設の貸付け及び運営補助を行った。

(2) 府民の森の整備と管理

金剛生駒国定公園の自然レクリエーションの拠点になっている府民の森を地域の特性を活かしてより魅力あるものとするため、くろんど及びちはや園地において、休憩所（ログハウス）の建設など利用促進施設の整備を行った。また、8園地の適正な管理に努めた。

(3) 緑の文化園の整備

土砂採取跡地の室池北部地区において緑の回復を基本とし、民間事業者と共同で、水と緑を一体的に活用した施設整備を図り自然レクリエーションの拠点づくりを行った。

(4) 二上山・万葉の森の整備

二上山雌岳を中心とした地域を万葉人の心にふれる自然レクリエーションの拠点として広場や園路等を整備した。

(5) 府自然環境保全地域の管理

府自然環境保全条例に基づき、昭和53年1月に本山寺、平成元年4月に意賀美神社、美具久留御魂神社、若山神社、妙見山の4か所を新たに指定し、(財)大阪みどりのトラスト協会が保全契約に基づきその良好な自然環境の保全に努めている。

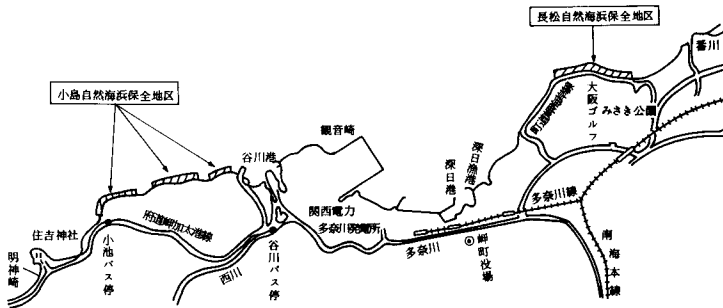
第4 自然海浜保全地区の指定及び施設整備等

府下に残されている自然海浜を保全し、その適正な利用を図るため大阪府自然海浜保全地区条例に基づき、昭和58年11月21日に長松自然海浜保全地区（岬町）、小島自然海浜保全地区（岬町）を指定した（図2-14-1）。

これに伴い、岬町が行う長松・小島両地区の清掃に対して、補助金を交付するなど、地区の環境整備に努めた。

また、同条例では、地区内に於ける土石の採取等一定の開発行為が規制されており、その監視に努めた。

図 2 - 1 4 - 1 自然海浜付近図



第 5 緑化事業の推進

1 工場の緑化推進

工場の緑化を推進するため、工場立地法（昭和 3 4 年法律第 2 4 号）に基づき、緑地面積の確保を指導するとともに工場緑化用樹木の無償配付、工場緑化コンクールの開催等府下工場に対する緑化思想の啓発普及、緑化推進のための助言・指導を実施した。

2 緑化樹の養成、配付

緑豊かな生活環境を創出するため、緑化樹の養成を行い、住民が協同して行う地域緑化及び府、市町村の行う公共施設の緑化等に対して、2 3 万本の緑化樹を無償配付した。

なお、大阪府施設等の緑化基準は表 2 - 1 4 - 1 1 のとおりである。

3 緑化センターの運営

緑化に関する知識・技術の総合的な相談、指導を行う拠点として府立緑化センターを昭和 5 8 年 4 月から開設し、緑化に関する資料、緑化樹とその植栽例の展示、緑化に関する情報の収集・提供、緑化技術の相談・指導、緑化に関する講習会・研修会の開催などを実施している。なお、平成 2 年度は、1, 4 0 3 件の相談があった。

4 緑化推進対策事業

広く府民に緑化の普及啓発を図るため、泉南市との共催による第 3 8 回大阪府植樹祭や大阪市との共催による大阪花まつり、大阪城菊の祭典等を行った。

第 6 府民参加による自然環境保全対策の推進

大阪府みどりの基金を目標の 1 0 0 億円に拡充するとともに、(財)大阪みどりのトラスト協会の活動を積極的に支援し、これらを府民参加による自然環境保全、緑化推進システムの両輪として、多彩な事業を展開した。

表2-14-11 大阪府施設等の緑化基準

施設の区分		緑化基準（緑被率）
公園・ 緑地	住 区 基 幹 公 園	敷地面積のおおむね 30%以上
	都 市 基 幹 公 園 等	40%以上
	広域公園（森林を主とする広域公園を除く。）	50%以上
	森 林 を 主 と す る 広 域 公 園	90%以上
教育施設	幼 稚 園 、 小 ・ 中 ・ 高 校 等	20%以上
	大 学 等	30%以上
社 寺 ・ 古 墳		70%以上
道 路		10%以上
緑 道		70%以上
水 辺		10%以上
公共施設	庁 舎 等	20%以上
	社 会 福 祉 ・ 環 境 衛 生 施 設	30%以上
住 宅	1 戸 建 （ 長 屋 建 ） 住 宅	20%以上
	共 同 住 宅	30%以上
工 場 等		20%以上
医 療 施 設		30%以上
鉄 道		30%以上
海 浜 地	保 全 林 ・ 保 安 林	100%
	埋 立 地	20%以上

(注) 緑被率 = $\frac{\text{緑被地面積}}{\text{敷地面積}}$